



木造ハウジングコーディネーター

木住協NOW
連載

奮闘記



「トータルに学べて実務に役立つのが わかったので資格取得を決めた」 と語る ナイス株式会社の鈴木雅人さん

今回の「木造ハウジングコーディネーター奮闘記」は、ナイス株式会社(本社=神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-33-1、杉田理之社長、1種A会員)の鈴木雅人さん(56歳)に登場していただいた。ベテラン社員になってから、この木造ハウジングコーディネーター資格試験を受けることになったきっかけは、「木造住宅についてトータルに学べて実務に役立つことがわかったので、この資格を取得することに決めた」と語っている。

不動産営業から入社10年で 資材事業部門総務へ転出

鈴木雅人さんは、平成元年にナイス株式会社に新卒入社し、現在は資材事業本部横浜営業所 課長として勤務している。

大学では法学部で学び、就職活動では住宅にかかわる仕事に就きたいという希望から不動産関連会社数社を受けた。そして、木造戸建住宅の分譲販売の仕事に興味があったので、ナイス株式会社に就職することになったとのこと。

入社してからは、住宅事業本部千葉営業所で営業マンとしてスタートし、その後、浜松営業所に移った。こうして若手社員として不動産営業をしてきたが、32歳の時に、資材事業本部の横浜営業所で総務経理の仕事に就くこととなった。

「ナイスの社員は、大きく不動産系と資材系に分かれます。最初の10年は不動産系の仕事でしたが、ここから資材系の仕事に携わることとなりました」と、鈴木さんは語る。

その後は、福岡、宇都宮、埼玉、そして再び横浜、相模原、宇都宮を経て、この2月より現在の職場である三度

目の横浜勤務となった。

現在の一日の仕事の流れとしては、自宅から電車通勤で40分ほど。主な仕事は、材木店、建材店など顧客管理や与信管理といった総務経理が中心だが、エリア総務として工務店への外回りも行っている。

埼玉でエリア総務の責任者となり 資格取得を決意

木造ハウジングコーディネーター資格を取得しようと考えるようになったきっかけは、埼玉に赴任した頃に、エリア総務という部署ができたためだという。

「資材部門の直接の取引先は材木店や建材店ですが、その先の購入促進を図るためには、工務店に出向いてお話を伺い、実情に即した情報提供や助言を行うことが重要でした。私は、従来の総務経理の仕事に加えて、エリア総務の最初の責任者となりました」と、鈴木さんは話す。工務店への提案や助言を行う機会が増えてきたことが、木造住宅への学び直しの転機となったそうである。

鈴木さんは、これまで不動産営業時代に、宅地建物取引士、資材事業本部の仕事に就いてから、ローンアドバイザー、ファイナンシャルプランナー、省エネ技術者、

損害保険業務者など、いろいろな資格を取得してきた。「ベテラン社員になってこの時期に木造ハウジングコーディネーター資格を取得しようと決めたのは、やはり木造住宅について営業編・技術編ともにトータルに学べて実務に役立つことがわかったからでした」と、当時を振り返る。

平成20年度(2008年度)のことなので、総務経理の責任ある立場にあり、試験勉強のための時間をつくるのに苦労したという。

「二日間の講習会に出席しましたが結構難しい感じがして、中途半端な学習では合格できないように思いました。そこで、試験日1週間前くらいから本腰を入れてテキストを必死で読みこみました。まだ過去問題集などあまりなく、出題傾向もわからず、正直どうしようと思った記憶があります」とのこと。

無事合格して良かったのは、やはり工務店へのアドバイスに役立ったことだと言う。

「ちょうど埼玉営業所でエリア総務を始めた頃に、国土交通省の「地域型住宅ブランド化事業」という補助金制度ができました。地域の木材を使い、地域の気候・風土にあった木造住宅のルールづくりに、地域の工務店とグループで取り組むことになったのです。この資格試験で学んだことがこのプロジェクトですぐに活かされることになって、うれしく思いました」と、鈴木さんは、当時を振り返ってくださった。

資格取得から10数年更新講習は 欠かさずに修了

鈴木さんは、木造ハウジングコーディネーターの資格取得からはすでに10数年が経っている。初回の3年後更新講習会、そして5年毎に行われる更新講習会も欠かさずに有効期間内に修了し、最新の情報を盛り込んだ改訂テキストもきちんと目を通していているそうだ。

「現在の資材部門の部署では、業務に直接結び付くわけではないので、この資格試験を周囲に勧めることもあまりしてきませんでしたが、今回の取材を機に、社内にも、工務店など取引先の皆さんにも資格取得をお薦めしていこうと思っています」と、有難い言葉をいただいた。

鈴木さんのプライベートについても伺った。結婚は最初の宇都宮勤務の頃、現在は、奥様と中学二年生となる息子さんと自宅で三人暮らしをしている。

「息子は部活でソフトテニス部に所属していますが、妻の影響で小学生の頃からエレクトーン演奏を習っています。幼い頃は女子も男子も半々でしたが、今は男子

でお稽古を続けている者が少なくなっているそうです。先日も、横浜サルビアホールで発表会があり、演奏を披露しました」とのこと。鈴木さんは学生の頃サッカーをやっていたが、息子さんの方はどちらかというところとエレクトーンのお稽古の方に力を入れている様子である。

休日の過ごし方についても鈴木さんに伺った。つい二カ月前まで宇都宮で二年半単身赴任をしていたため、家族と過ごせるのは週末の土日二日だけ。せいぜい家族といっしょに買い物に出かけるくらいの時間しかなかったとのこと。

「その延長で今もまだ慌ただしい毎日で、家族とゆっくり時間を過ごすことができないでいます。これから余裕ができれば、何か自分の趣味の時間も持ちたいと思っています」と、鈴木さんは話している。

最後に、将来の夢について伺った。

仕事面では「これまでのキャリアを活かして、もっと取引先に役立つ仕事がしたいと思っています。工務店から如何に信頼されるか、単なる物売りではなく、喜ばれるような提案をしたい」とのことであつた。

プライベート面では「夢といえるかどうかわかりませんが、体を大切に、永く仕事が続けられるように、これからも健康でとあり続けたいと思います。」とのことであつた。

ベテラン社員としての鈴木さんのこれからの活躍に期待したい。

